



発行  
日本共産党  
春日部市委員会  
春日部市粕壁東  
6丁目7-12  
電話 748-5159  
FAX 748-5179

# 憲法9条どうなる? どうする?

## 日本国憲法こそ希望

10月21日、春日部9条の会は弁護士白神優理子氏(八王子合同法律事務所)を講師に「憲法9条どうなる? どうする? 日本国憲法こそ希望」と題する憲法学習会をおこないました。

白神氏の講演の要旨を紹介いたします。

**「憲法を守る」ために  
弁護士に**

高校生の時に、広島にある「原爆の子の像」の話を知り、アメリカの子どもたちが1995年に「子どもたちの平和像」を建てたことを知り、「世界の

子どもの平和像を東京につくる会」の実行委員長として一千万円の募金を集め、2001年5月江東区の東京大空襲・戦災資料センターに子どもの平和像を立てることができました。平和について学ぶ中で憲法に出会い、憲法を守り、生かすために弁護士をめざすことを決めました。

**命はたった一つ  
戦争は絶対にダメ**

司法修習生の時、1年間沖縄で研修を受けました。沖縄では、たびたび不発弾処理のために広範囲で通行止めにな

ります。沖縄戦は「天皇制を残す」ことを降伏の条件にするための時間稼ぎだった。78年経った今も沖縄は犠牲になっています。普天間基地反対の座り込みで出会った文子おばあ(島袋文子さん、85歳)は「命はたった一つ。だから絶対に戦争したらダメ。だから、たった一つの命を張ってここに立ってるんだ」と話してくれました。

徹底的に戦争を否定し、人間の命と尊厳に最高の価値を置いたのが日本国憲法。まさに、日本国憲法こそ希望です。

**憲法を生かせば  
教育も医療も無料に**

「攻められたらどうする?」と不安をもち、軍事力強化が安全や平和を守るかのようには言われませんが、まったく無責任です。どんなに軍事力を備えても、ひとたび戦争が始

まれば取り返しがつきません。だから、日本国憲法も国連憲章も「戦争を起こさない」ことを誓っています。

岸田首相は「改憲」に意欲を燃やしていますが、民意は改憲を望んでいません。そもそも、憲法は政府や政治家が暴走しないように定められたもので、政府は憲法を守る義務があります。

憲法を本気で守り生かすとどうなるか?

フィンランドは国家予算11兆円の国ですが、子どもの教育費は完全に無償(給食も通学費も学用品も)、17歳までは月1万3千円が支給され、大学生は返済不要の奨学金が月数万円支給。一クラス24人以下学級。18歳までは医療費も無料。残業する労働者はいない。日本の国家予算は年間172兆円。この予算をくらし、社会保障、教育、医療にこそ使わせましょう。

〈生活相談は日本共産党へ〉

並木としえ TEL737-4576 大野とし子 TEL746-6136 今尾やすのり TEL761-3676 木下みえ子 TEL734-4677

日本共産党市議団ホームページ <https://www.jcp-kasukabe.jp/>



# 横手市園芸振興センターが目指すもの 人を育てる・未来を拓く・価値を高める

10月17日～19日、大野とし子議員は①小中学校の学力向上の取り組み(秋田県・仙北市)②農業創生大学の取り組み(秋田県・横手市)③第6次産業について(岩手県・奥州市)をテーマに視察を行いました。

## 受け継がれてきた自主的に学ぶ「家庭学習」

仙北市の研修体系は、全国学力テスト分析改善委員会が1年間の教育を反省し施策を見直し市教育目標へ反映します。そして4月に行われる教員のついで最新動向と市の方向性を伝え、各学校で授業研究に取り組み、11月に教育研究会を開き、1年間を振り返る

というものです。教員の共通理解を大切にしていきます。

また、秋田県全県で取り組んでいる学び方を学ぶ「家庭学習」が脈々と受け継がれています。自由勉強のメニューがあり、自分が得意なこと、苦手なことを考え必要な学習を選らんで学びます。自主的に学ぶことが田島の学力向上に繋がっていると考えました。

## 新規就農者への寄り添った研修で担い手を育成

横手市は農業が基幹産業ですが、全国の課題と同じく農業者の高齢化、担い手不足が問題でした。平成26年市長の提案で産業経済部

から農林部を独立させ、「農家所得の向上」「担い手の確保」を目的として廃校した学校に「園芸振興拠点センター」を建設し、「よこて農業創生大学事業アクションプラン」に基づき、事業を展開しています。

品開発支援(価値を高める)園芸振興拠点センターに農業者が原材料から商品を開発するための施設があり、農業者自ら商品を開発し販売する。各取り組みに食農推進課が農業者と共に歩む体制ができていました。

## 奥州市6次産業化・地産地消推進協議会を設立

①研修を軸に担い手の育成(人を育てる) 就農をめざし農業創生大学校で実践的な知識や技術、農業経営を2年間学びます。講師は県の職員を有償で招聘し、就農後はサポートチームが支援します。寄り添った支援で現在25名中24名が新規に就農し成果を上げています。

農家所得の向上と農家自ら商品開発、加工販売に取り組むことへの支援を目的に「6次産業化推進計画」を策定しました。県や国の補助金を活用し、セミナーを開き相談にのります。現在7品目が継続して販売されていますが、新商品の開発は進んでいない状況です。

②新規作物の実証実験と販路の構築(未来を拓く) 拠点センターでの実証実験を通し、戦略品目を増やし現在4品目から8品目になりました。

食農連携推進室と農業者の直接の連携が求められていると考えます。

③6次産業化支援施設で商

市立医療センター TEL735-1261(夜間毎日、土・日・祝日)内・外科系 小児救急電話相談 #7119

- 11/ 5(日) 三須医院(内科系) 粕壁東1-11-12 TEL752-2200 豊春内科小児科クリニック(小児科系) 上蛭田681 TEL760-3711 桜井整形外科(外科系) 増富96-3 TEL761-6629
- 11/12(日) 木田内科医院(内科系) 中央1-11-4 TEL763-0183 安達医院(小児科系) 栄町3-287 TEL761-6398 松浦婦人科専門クリニック(外科系) 一ノ割1-5-1 TEL735-7851

